

2013年9月

ASEAN地域のニュースや動向、製品の最新情報を取りまとめたD&BのASEANニュースレター最新号をお届けします。注目の話題を多数ご紹介していますので、ご高覧下さい。詳しい情報は、リンク先をクリックするか、最寄りの東京商工リサーチ支社店にお問い合わせいただくか、東京商工リサーチマーケティング部までメールでお問い合わせ下さい。

FDI流入が史上最高に

8月23日－東南アジア諸国連合(ASEAN)は、最近発表した「ASEAN投資報告書2012年」で、外国直接投資(FDI)における快挙を報告しました。

ASEANへのFDI流入(フロー)は、2011年、史上最高の1,140億米ドル(2010年比24%増)を記録し、2011年の世界のFDI流入の約7.4%がASEANへの投資でした。また、ASEANのFDI残高(ストック)は、2011年に1兆1,000億米ドル超に膨らみました(2000年の2,660億米ドルから4倍増)。

ASEANへの堅調なFDI実績をもたらした要因は、M&A売却案件の急増、ASEAN加盟国間の投資の増加、地域レベルの措置や協定に加えて、新たな投資源からのFDIの増加など様々です。

また、ASEAN加盟各国は、投資対象業界や投資ルートの一層の開放、投資手続きの簡略化、新たな業界にFDIを呼び込むための税制及び財務上のインセンティブ提供により、投資環境の改善をさらに進めるための措置も講じています。[詳細はこちら](#)

出典: ASEANブリーフィング

ASEAN自動車市場、引き続き成長する見通し

8月16日－市場調査・コンサルティング会社のフロスト&サリバンの最近発表した報告書によると、ASEANが2019年までに自動車購入台数で世界第5位になる見通しです。所得および青年層の増加に後押しされ、ASEANの自動車市場は、2019年までに複合年間成長率(CAGR)で5.8%の成長を遂げ、「ASEANが世界の自動車生産ハブになる」と予測しています。

ASEANにおける自動車ブームの先頭に立っているのは、インドネシアとタイで、両国とも今年すでに自動車走行台数が百万台を突破し、ASEAN諸国で最多となっています。

フロスト&サリバンはまた、ASEANの自動車生産の伸びを予測しており、2019年までのCAGRは8%となり、同年までに生産能力は7百万台になるとしています。

[詳細はこちら](#)

出典: ASEANブリーフィング

www.dnb.com

© 2013 Dun & Bradstreet, Inc.

ASEAN産業界の主な動き

ASEAN

2013/8/29 ASEANブリーフィング [米国企業、ASEANでの事業に明るい見通し](#)

インドネシア

2013/8/26 ジャカルタ・グローブ [インドネシア電力ケーブル業界再編へ](#)

2013/8/22 ジャカルタ・ポスト [7月以降の自動車販売減少の懸念浮上](#)

2013/8/21 ジャカルタ・ポスト [卑金属業界、下半期12%成長の見通し](#)

ラオス

2013/9/3 ASEANブリーフィング [ラオス、鉄道プロジェクトを拡大](#)

マレーシア

2013/8/19 スター [高性能チップ・センサー需要鈍化の見通し](#)

ミャンマー

2013/8/6 IBT [フォード、GM等の自動車メーカー、ミャンマーに競って進出](#)

フィリピン

2013/8/23 マニラ・スタンダード [自動車輸入1%増](#)

2013/8/22 デイリー・インクワイアラー [フィリピン、製造業重視を迫られる](#)

2013/8/21 ビジネス・ワールド [電子機器、依然成長が見込まれる](#)

2013/8/13 マニラ・プレティン/Yahooニュース [自動車業界、目標を修正](#)

2013/8/5 デイリー・インクワイアラー [外資系企業、フィリピンの電子機器業界への投資に意欲](#)

シンガポール

2013/8/19 サウスチャイナ・モーニング・ポスト [シンガポール、地域での優位を求め、第5空港ターミナル建設へ](#)

タイ

2013/9/4 ネーション [中国系自動車メーカー、我が国に工場を建設](#)

2013/9/3 ネーション [大手自動車メーカー、試験走路開設](#)

2013/8/31 バンコク・ポスト [ローソン、順調なAsean進出](#)

2013/8/30 バンコク・ポスト [東芝、新たな半導体工場について発表](#)

2013/8/29 バンコク・ポスト [新計画: 高速ではなく中速列車に](#)

2013/8/28 バンコク・ポスト [エコカー過剰供給、新たな懸念](#)

ベトナム

2013/9/9 VOV [ベトナム、半導体業界を推進](#)

2013/8/28 サイゴン・タイムズ [航空機購入、国が6千万ドル節減](#)

2013/8/6 ベトナム・ニュース [日立、インフラ関連の拠点を確保](#)

2013/8/2 ベトナム・ネット [鉄鋼協会、課税逃れをしている中国の合金鋼への対抗措置を求める](#)

安倍首相のASEAN歴訪

9月6日ー安倍首相の最近の東南アジア歴訪は、日本が再びこの地域との関係強化を図ろうとしていることを示唆している。安倍首相は、1月に首相再任後初の外遊として、インドネシア、タイ、ベトナムを訪問しています。

安倍首相は、5月にはミャンマー、7月にはマレーシア、シンガポール、フィリピンも訪問し、10月にはブルネイ、カンボジア、ラオスを訪問予定です。この歴訪が主として中国を囲い込むための戦略だと解釈する観測筋が多いが、日本がこのような外交を行う主な動機は、商業的利益と戦略的利益が入り混じったものだとと言えるでしょう。

安倍首相の東南アジア歴訪は、過去にも行われています。歴代の佐藤・田中・福田元首相が指揮した外交政策の転換に見られるように、日本は過去に何度も東南アジアとの関係強化を図ってきました。日本のリーダーが東南アジアに歴訪するたびに主要な課題となったのは、中国関連か、日本経済をめぐる懸念か、その両方でした。同行団はなかったが、日本が戦後初めてこの地域を訪問したのは、1950年代の吉田政権のときでした。訪問の動機は、主に通商上のもので、中国の社会主義体制への移行を受けて中国市場を「喪失」し、東南アジア地域をその代替として見ていたからです。それ以来、日本のリーダーは常に東南アジア諸国との関係を重視してきました。日本が長年にわたり着実に増やしてきた援助、貿易、投資という形で、この地域において経済面での大きな存在感を示してきたことが、このような見方を裏付けています。

[詳細はこちら](#)

出典: イースト・アジア・フォーラム

写真提供: AmCham Vietnam



インドネシア、2015年のASEAN経済共同体で強力な立場に

9月8日ー「インドネシアは、2015年、ASEAN経済共同体(AEC)の主要なプレイヤーになりそうだ。」あるシンクタンクの代表が、9月6日(金)にバリ島のヌサドゥアで初開催されたジュリアス・ベアの「次世代サミット(Next Generation Summit)」で、こう語りました。

シンガポール国際問題研究所会長のサイモン・テイ(Simon Tay)氏は、インドネシアはこの地域で最大の人口を擁しているため、AEC設立という局面にあっても堅調だろうと述べ、

「インドネシアは、ASEAN経済の約40%を占めている。AECにとって、インドネシアは実に強力なメンバーで、金融機関の管理監督がASEANにおけるインドネシアの位置付けを決める」と付け加えました。

また「中央銀行と財務省のリーダーシップが重要となるが、インドネシアは大丈夫だろうと確信している。」と述べました。

現在ASEANには10ヶ国が加盟しており、その人口は6億人を超えます。ASEANは、加盟国のための単一市場であるAECを2015年に設立予定で、グループの共同マーケティング力のみならず、加盟各国の競争力を高めることを目指しています。[詳細はこちら](#)

出典: ジャカルタ・ポスト/アジア・ニュース・ネットワーク

成長の勢いが止まらない東南アジアの大型家電業界、

2013年上半期は34億米ドルの売上: GfK

～洗濯機需要は史上最高の伸び、最も急成長している市場はベトナム～

9月8日ー主に新興市場から成る東南アジア地域の消費者は、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジなどの大型家電製品を強く欲しています。GfKは、大型家電(MDA)業界小売調査を行い、需要が高まり、主要4部門中3部門で前年同期比20%以上伸びたと報告しました。

今年上半期、GfKの調査対象となった東南アジア主要8ヶ国ーシンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオスーで合計1,150万台近い大型家電製品が販売されました。需要は、販売台数ベースで前年比20%近く増加し、米ドル換算の金額ベースでは22%の成長を記録しました。

調査期間中最も急成長を見せた市場はベトナムで、消費者の大型家電製品への支出額が31%増加しています。他にも、インドネシア、カンボジア、タイのMDA市場は金額ベースで約22%の高成長を見せました。[詳細はこちら](#)

出典: ASEANアフェアーズ/GfK

最新のカントリーリスク

ASEAN地域のリスク指標

シンガポール	DB2b
マレーシア	DB3b
インドネシア	DB4b
フィリピン	DB4b
タイ	DB4c
ベトナム	DB5b
カンボジア	DB5d
ミャンマー	DB6a

カントリーリスクに関する ニュースヘッドライン

- マレーシアー官民の消費が経済活動を引き続き高める。
- タイー第2四半期に再び自律的景気後退入り。

DBリスク指標は、DB1からDB7までの7つの等級に分かれています。各等級は、さらにaからdまでの4分位に分類され、リスクが最も軽い上位4分の1が「a」、その次に軽いのが「b」という順になっています。DB7のみ、この4分位の分類がありません。

DB1 最もリスクが低い	輸出支払いなどの予想リターン、外国債券・株式に係る債権回収に関する不確実性の程度が最も低い。
DB2 低リスク	予想リターンに関する不確実性の程度が低い。ただし、全国的要因により、将来的にリターンの変動性が高まる場合がある。
DB3 若干リスクあり	カントリーリスクの慎重なモニタリングが必要で予想リターンに関する不確実性がある。顧客は積極的にリスクエクスポージャーを管理すべき。
DB4 中程度のリスク	予想リターンに関して無視できない不確実性がある。リスクを嫌う顧客は、発生し得るリスクから身を守る措置を講じることをお勧めする。
DB5 高リスク	予想リターンに関する不確実性が高い。企業はそのようなエクスポージャーの制限やハイリターン取引に限った選択を行うことをお勧めする。
DB6 非常にリスクが高い	予想リターンは大きな変動性に左右される。予想リターンは、追加リスクやそのリスクヘッジコストの負担を補えるほど非常に高くなければならない。
DB7 最もリスクが高い	正確にリターンを予測することはほぼ不可能。ビジネスのインフラは、実質的に崩壊している。

東京商工リサーチではD&Bの世界130ヶ国以上のカントリーリスクレポートを提供しています。ASEAN地域に限らず、その他の国の地域のカントリーリスクレポートをご希望の場合には東京商工リサーチまでご連絡下さい。

Product Enhancement Portfolio Manager v.7.0



Helping you see
the full picture

製品最新情報

ポートフォリオ・マネジャー

当社は先日ポートフォリオ・マネジャーをバージョン7.0にアップグレードしました。既存のお客さまの場合は、今回の製品アップグレードは自動的に更新されます。

ポートフォリオ・マネジャーは、オンライン分析ツールで、貴社の顧客売掛金データとD&Bデータベースを統合し、貴社のポートフォリオについて独自の分析結果を提供し、主なリスクと機会の領域を正確に捉えられるようになります。

主な強化点：

- 過去24ヶ月以内に注文した企業に関する報告書が、「Business Summary (事業概要)」の画面でご覧いただけるようになりました。
- ポートフォリオ・マネジャーに、自由記載できるテキスト欄が設けられ、各顧客に関するコメントの記載や追跡調査ができるようになりました。
- 警告及び関連設定が改善され、監査機能が強化されました。
- 新たな「Historical Setting (設定履歴)」セクション：ポートフォリオ・マネジャーで分析を行うために加えた設定の履歴が見られるようになりました。
- 「Failure Risk Score (不履行リスクスコア)」の詳細：各顧客の過去の不履行スコアが世界中どこからでも見られるようになりました。
- 「Business Summary (事業概要)」の画面に、各企業が貴社ポートフォリオに最初に加えられた日付が表示されるようになりました。
- FTPによるデータダウンロードが毎日可能になりました。
- その他の強化点：サポート言語の拡大、分析に使える通貨の拡大、市場別分析および詳細データに利用できる市場通貨による綿密なデータなど。

製品についてもっと詳しくお知りになりたいですか？

ポートフォリオ・マネジャーは、すべてを一元的に管理するオンラインソリューションです。この製品の詳細および貴社の顧客・供給業者ポートフォリオ管理の効率向上にどのように役立つかデモをご覧になりたい場合は、東京商工リサーチまでご連絡下さい。

ご意見・ご感想： ASEANニュースレターは今後もより良いものを目指してまいりますので、率直なご意見またはコンテンツの要望など、[アンケート](#)へのご回答またはニュースレター・チームへのメール (ongc@dnb.com) でご意見をお寄せ下さい。